

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	衛生管理	必修	60	2		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	公衆衛生の意義、予防衛生、保健衛生、環境衛生、特に美容業務上で必要不可欠な衛生知識などについてテキストに沿って教授すると共に、その時点における社会の動きなどについても教授する。								
学習目的	理容師・美容師は、人の健康に関わる職業であることから衛生管理のプロとして求められる知識・技術を身に付ける。また顧客との良好な人間関係を築くうえで必要な公衆衛生関係の社会常識、特に最新の情勢についての知識を習得する。								
教科書	日本理容美容教育センター「衛生管理」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	公衆衛生の概要	公衆衛生の意義を学び、我が国の公衆衛生を知る。	
第2回	公衆衛生の具体的な課題と領域	公衆衛生を知り、出生率、死亡率、乳児死亡率、平均寿命。	
第3回	理容師・美容師と公衆衛生	歴史にみる理容美容と公衆衛生。保健所の役割を知る。	
第4回	予防医学と保健	予防医学の目的と意義を知る。母子保健と統計について学ぶ。	
第5回	成人、高齢者保険	生活習慣病とその対策を知り、健康日本21の概要を理解させる。	
第6回	医療介護の制度	日本の医療、保険制度について理解する。	
第7回	環境衛生を学習する目的	環境の自然や人々の健康に及ぼす影響を知る。	
第8回	環境衛生	家庭、学校、事業所、営業施設、公共団体による公衆衛生。	
第9回	空気、水、日光	空気、温度、湿度、気流、水と健康。	
第10回	住居の衛生	採光、照明、換気の役割を知る。上下水道と廃棄物を理解する。	
第11回	衛生害虫とネズミ	衛生害虫の被害や駆除の方法を知る。公害についての理解を深める。	
第12回	理容所・美容所の環境衛生	不特定多数が出入りする環境を知り、管理能力を高める。	
第13回	実習室の衛生状態を確認	温度、湿度、換気、照明、器具類の管理。	
第14回	感染症の総論	感染症の発見や人物を理解する。	
第15回	感染症と法律	感染症の制定や分類を学ぶ。	
第16回	感染症を学習する目的	客、従業員を通しての感染症伝播の危険性を知る。	
第17回	感染症の種類	感染症の3つの分類を知り、感染症の種類を覚える。	
第18回	病原微生物	病原微生物の種類と形と大きさや構造を知る。	
第19回	微生物の増殖と環境の影響	細菌の増殖と環境の影響を理解する。	
第20回	感染症の予防	微生物の病原性と汚染、感染及び発病について学ぶ。	
第21回	常在細菌叢	人体の常在細菌叢を知る。	
第22回	免疫と予防接種	先天免疫、後天免疫、予防接種、ワクチンを知る。	
第23回	感染症発生の要因	感染源、感染経路、宿主の感受性。感染症の3大要因。	
第24回	感染症予防の3原則	感染源、感染経路、宿主の感受性に対する対策。	
第25回	感染症の予防 まとめ	汚染、感染、発病を理解させる。免疫と予防接種を学ぶ。	

第26回	感染症の概要	理容、美容と感染症。一類感染症を知る。	
第27回	二類感染症、三類感染症	二類感染症、三類感染症を知る。病原体、感染源、感染経路。	
第28回	四類感染症、五類感染症	四類感染症、五類感染症を知る。病原体、感染源、感染経路。	
第29回	新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ、予防接種法で規定されている感染症。	
第30回	感染症の概要 まとめ	感染症の病名、種別、病原体、性格を復習する。	

到達目標	・ 理容師・美容師国家試験(衛生管理)合格レベルの知識習得 ・ 理容師・美容師の社会的責任・職業倫理への理解
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	保健	必修	60	2		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)について具体的な知識を持つ。								
学習的	人体の構造、機能に関する科学的系統的知識を理容・美容技術と関連づけて学ばせる。								
教科書	日本理容美容教育センター「保健」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名所	
第2回		頭部、顔部、頸部の体表解剖学	
第3回	骨格器系	骨の種類と構造／骨の連結	
第4回		骨格器系とそのはたらき	
第5回	筋系	筋の種類とその特徴	
第6回		表情筋と表情運動	
第7回	神経系	神経系の成り立ち	
第8回		中枢神経とそのはたらき／末梢神経とそのはたらき	
第9回	感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚	
第10回		味覚、嗅覚	
第11回		皮膚感覚	
第12回	血液・循環器系	血液のあらまし	
第13回		血液循環の仕組み／血液の循環経路	
第14回		心臓と血管のはたらき／リンパ管系の仕組みとはたらき	
第15回	呼吸器系	呼吸器系のあらまし／気道	
第16回		肺の仕組みとガス交換／呼吸運動	
第17回	消化器系	消化器系のあらまし／気道	
第18回		肺の仕組みとガス交換／呼吸運動	
第19回	皮膚の構造	皮膚の表面／皮膚の断面	
第20回		表皮	
第21回		表皮と真皮の境／真皮	
第22回		皮下組織／皮膚の部位差	
第23回	皮膚付属器官の構造	毛／脂腺	
第24回		汗腺／爪	
第25回	皮膚の循環器系と神経系	皮膚の血管	
第26回		皮膚のリンパ管／皮膚の神経	

第27回	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	体外保護作用／体温調節作用	
第28回		知覚作用と皮膚反射／分泌排泄作用	
第29回		呼吸作用／吸収作用	
第30回		さ貯蔵作用/免疫・解毒・排泄作用／再生作用	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験(保健)合格レベルの知識習得
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	香粧品化学	必修	60	2		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	学科及び実技としての香粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「衛生管理」、「保健」「理容・美容技術理論」など、他教科との関連性を付ける。								
学習的	理容師・美容師として重要な意義をもつ「香粧品化学の理解と応用能力」を身に付けさせる。								
教科書	日本理容美容教育センター「香粧品化学」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	香粧品化学を理解するための基礎化学	物質の構成成分について、溶解とコロイド、酸化・還元反応等の復習	
第2回	香粧品概論	香粧品の社会的意義と品質特性	
第3回		香粧品の規制	
第4回		香粧品の安定性と取り扱い上の注意	
第5回		香粧品と安全性	
第6回		香粧品用原料	香粧品の対象となる人体各部の性状
第7回	水性原料		
第8回	油性原料		
第9回	界面活性剤		
第10回	高分子化合物		
第11回	色材		
第12回	香料		
第13回	その他の配合成分		
第14回	ネイル、まつ毛エクステンション用材料		
第15回	香粧品まとめ I	香粧品化学の国家試験(筆記)対策問題練習	
第16回	基礎香粧品	皮膚洗浄用香粧品	
第17回		化粧水	
第18回		クリーム・乳液	
第18回		その他の基礎香粧品	
第20回	メイクアップ用香粧品	メイクアップ用香粧品の種類と剤形	
第21回		ベースメイクアップ香粧品	
第21回		ポイントメイクアップ香粧品	
第23回	頭皮・毛髪用香粧品	シャンプー剤	
第24回		スタイリング剤	
第25回		パーマ剤	
第26回		ヘアカラー製品	
第27回		育毛剤	

第28回	芳香製品と特殊化粧品	芳香製品	
第29回		特殊化粧品	
第30回	化粧品まとめⅡ	化粧品化学の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験合格レベルの知識習得 2. 人の生体の成分に化学変化を与える化粧品の基本知識を習得し、その危険性について認識する 3. 化粧品化学の知識・理解を深め美容の専門家への道を拓く
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	文化論	必修	60	2		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	「日本」「西洋」の髪型、メイク、ファッションの歴史を学び、現代にどのように受け継がれ活かされているかを学ぶ								
学習的	理容・美容の文化史を学び「ファッション」について考え、コミュニケーションのツールと共に歴史を学ぶ								
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	総論	理容・美容の語義、現代社会、文化史、造形要素、仕事	
第2回	日本の理容業・美容業の歴史	理容業・美容業の発生	
第3回		江戸時代の理容業・美容業	
第4回		近代の理容業・美容業	
第5回		現代の理容業・美容業	
第6回		日本の理容業・美容業の歴史の歴史年表	
第7回		ファッション文化史 日本編	縄文、弥生、古墳時代
第8回	古代(飛鳥、奈良、平安時代)		
第9回	中世(平安末、鎌倉、室町、戦国時代)		
第10回	近世Ⅰ(戦国末、安土桃山時代)		
第11回	近世Ⅱ(江戸時代)		
第12回	近代(明治、大正、昭和20年まで)		
第13回	現代Ⅰ(1945年～1950年代)現代Ⅱ(1960年～1970年代)		
第14回	現代Ⅲ(1980年～1990年代)現代Ⅳ(2000年代以降)		
第15回	文化論まとめⅠ	文化論の国家試験(筆記)対策問題練習	
第16回	ファッション文化史 西洋編	古代エジプト	
第17回		古代ギリシャ・ローマ	
第18回		古代ゲルマン	
第19回		中世ヨーロッパ	
第20回		近世Ⅰ(16世紀)	
第21回		近世Ⅱ(17世紀)近世Ⅲ(18世紀)	
第22回		近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め)近代Ⅱ(19世紀)	
第23回		現代Ⅰ(1910年～1920年代)現代Ⅱ(19130年～1940年代前半)	
第24回		現代Ⅲ(1940年後半～1950年代)現代Ⅳ(1960年代)	
第25回		現代Ⅴ(1970年代)現代Ⅵ(1980年代)	
第26回		現代Ⅶ(19690年～2010年代)	

第27回	婚礼の種類	和装の婚礼	
第28回		洋装の婚礼	
第29回		ファッション文化史年表	
第30回	文化論まとめⅡ	文化論の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	理容・美容文化史の移り変わりを知り、お客様にフッションについてアドバイスができる
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	美容技術理論	必修	80	2.5	○	講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく。								
学習目的	科学的根拠と系統だった理論を理解することにより、より良い技術と心を、お客様に提供できる美容師の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の修得をめざす。								
教科書	日本理容美容教育センター「美容技術理論1」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	美容技術理論を学ぶにあたって	美容理論と美容技術	
第2回	美容技術理論を学ぶにあたって	美容技術に必要な人体各部の名称	
第3回	美容用具①	美容技術における用具	
第4回	美容用具②	コーム／ブラシ／シザーズ	
第5回	美容用具③	レザ－／ピン類、ヘアクリップ	
第6回	美容用具④	ロッド／ローラー	
第7回	美容用具⑤	ヘアアイロン／ヘアドライヤー	
第8回	美容用具⑥	ヘアスチーマー／遠赤外線	
第9回	シャンプーイング①	シャンプーイングの総論	
第10回	シャンプーイング②	サイドシャンプー／バックシャンプー	
第11回	シャンプーイング③	リンス・コンディショナー・トリートメント	
第12回	シャンプーイング④	スカルプトリートメント	
第13回	シャンプーイング⑤	ヘッドスパ	
第14回	ヘアデザイン①	美容とデザイン	
第15回			
第16回	ヘアカットイング①	ヘアカットイングとは	
第17回	ヘアカットイング②	シザーズとレザ－の扱い方／美容刃物	
第18回	ヘアカットイング③	ヘアカットイングの正しい姿勢／ブロッキング	
第19回	ヘアカットイング④	ヘアカットイングの基礎理論	
第20回	ヘアカットイング⑤	ベーシックなカット技法／シザーズによるカット技法	
第21回	ヘアカットイング⑥	レザ－によるカット技法	
第22回	パーマントウェービング①	パーマントウェーブの歴史と現在／パーマントウェーブの理論	
第23回	パーマントウェービング②	パーマ剤の分類／パーマ剤に関する注意事項	
第24回	パーマントウェービング③	パーマントウェーブ技術／ワインディングのバリエーション	
第25回	パーマントウェービング④	縮毛矯正	
第26回	ヘアセッティング①	ヘアセッティングとは	

第27回	ヘアセッティング②	ヘアパーティング／ヘアシェーピング	
第28回	ヘアセッティング③	ヘアカーリング	
第29回	ヘアセッティング④	ヘアウエーピング	
第30回	ヘアセッティング⑤	ローラーカーリング	
第31回	ヘアセッティング⑥	ブロードライ	
第32回	ヘアセッティング⑦	アイロンセッティング	
第33回	ヘアセッティング⑧	バックコーミング／アップスタイル	
第34回	ヘアセッティング⑨	ウィッグとヘアピース	
第35回	ヘアカーリング①	ヘアカラーリング概論／ヘアカラーの種類／ヘアカラーのタイプ別特徴	
第36回	ヘアカーリング②	染毛のメカニズム／色の基本／毛髪のレベルとアンダートーン	
第37回	ヘアカーリング③	パッチテスト(皮膚貼布試験)／染毛剤使用時の注意事項	
第38回	ヘアカーリング④	ヘアカラーリングの道具	
第39回	ヘアカーリング⑤	酸化染毛剤(アルカリ性タイプカラー)の技術手順／酸化染毛剤の技術手順	
第40回	ヘアカーリング⑥	ヘアブリーチ(脱色)	

到達目標	1. 理美容師国家試験(理論)合格レベルの知識習得
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	運営管理	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	理容・美容を運営の視点から見ていく。その視点を理解し、よいサービスを実現するため視野を広げる。また、顧客や社会のための仕事を担う責任を理解し、より有能な理容師として活躍するための大きな知恵を身につける。								
学習目的	経営・マネジメントの知識を身につけ、実際に理容師として活躍していく中では、多くの事を具体的に学び、ビジネス感覚を身につけた人材を育成する。								
教科書	日本理容美容教育センター「運営管理」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	経営とは・経営者とは	経営の進め方や経営の原理	
第2回	継続が難しい理由=経営が必要な理由	現在の理美容業はどのような状況なのか	
第3回	経営とは何か？	経営・マネジメントの視点がなぜ必要か	
第4回	人という資源	理容業・美容業と労務管理	
第5回	従業員としての視点から	理容業・美容業と人事管理美容業と社会保障制度労務管理に関する知識	
第6回	サービス・デザイン1	企業の形態・美容業と料金	
第7回	サービス・デザイン2	理容業・美容業と経理、簿記と税務	
第8回	マーケティング1	なぜマーケティングを学ぶのか・マーケティングの基本的な考え方	
第9回	マーケティング2	マーケティング戦略・競争とポジショニング	
第10回	マーケティング3	理容業・美容業のためのマーケティング戦略の立て方	
第11回	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか売上志向から顧客志向へ	
第12回	サービスにおける人の役割	サロンの顧客とはどのようなものかサロンの接客には何が必要か	
第13回	接客の実践1	繁盛店になるための行動を考えてみよう1	
第14回	接客の実践2	繁盛店になるための行動を考えてみよう2	
第15回	接客の実践3	接客におけるトラブル・クレームの対処法や問題点を考える	

到達目標	サロンの経営者としてビジネス・経営の観点から分析できる力を身につけます。また従業員として働く場面や将来みずからが経営者として運営するために役立つ知識とビジネス感覚を養う。
成績評価	期末試験・単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	美容実習 (ヘアカッティング)	必修	54	1.8	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	ヘアカッティングの理論をよく理解し、カッティング技術の基本を確実に身に付ける。								
学習的	シザーズを正しく自在に扱い開閉運動を反復練習し、シザーズを手の一部のように扱えるようにする。								
教科書	日本理容美容教育センター「美容実習1」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ヘアカッティング座学	スライスの種類・パネルと頭皮の角度、パネルの幅や長さでカットラインの関係、パネルの角度とシルエットの関係	
第2回	シザーズの扱い方	シザーズとコームの連携動作、刃物による知識を学ぶ	
第3回	ワンレングスカット	毛髪が自然に落ちる位置にパネルをシェーブし、すべてを同一線上で切る	
第4回			
第5回	ワンレングスブロー	熱で毛髪の分子に一時的に熱をあたえてストレートにのばす	
第6回	レイヤーカット	長さの異なる毛髪の層を重ねあわせ、ボリュームを調整してスタイルに立体感をあたえる。段カットを理解する	
第7回			
第8回	レイヤーブロー	毛先の方向を内側に巻き込んだり、外側に跳ねさせ、ヘアスタイルを形づける	
第9回			
第10回	グラデーションカット	シェーブするパネルの角度の大小でグラデーションの幅が決まることを理解する	
第11回			
第12回	グラデーションブロー	ヘアデザインに合わせて動き、量感、方向性がだせるようにする	
第13回	セიმレングスカット	パネルを頭皮に対して直角(オンベース)に引き出し、全体をほぼ同じ長さにする	
第14回			
第15回	セიმレングスブロー	毛量を目的の方向へ引き、毛流をカーブさせる	
第16回 5 第18回	シザーズによるカット技法	ストロークカット・セーニングカット・ポイントイングカット・スライドカット・トリミングカット	

到達目標	毛髪の長さを調節すること、毛髪の疎密を整えることなどを通して、ヘアスタイルの基礎をつくりあげる。
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	美容実習 (ワインディング)	必修	87	29.0	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	国家試験合格に向けて構成・スタイル・形・タイム管理をしっかり習得する								
学習的	各学期ごとに構成、タイム管理をして、国家試験に向けて練習する								
教科書	理容師美容師試験センター「実技課題集」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ワインディング座学	パーマメントウェーブの歴史、理論、構造を学ぶ	
5		毛髪の構造とウェーブの形成を学ぶ	
第6回		パーマ剤に関する注意事項の理解	
第7回	セッティング	ワインディングのセッティング	
第8回	ワインディングウィッグ カット	ウィッグカット用のブロッキング	
5		シザーズの持ち方・シザーズとコームの持ち方・カットの連携動作 カット	
第15回		仕上げ	
第16回	ブロッキング	国試試験課題ブロッキング12ブロックを作る ブロッキングを理解し正確に作る	
5			
第20回			
第21回	ワインディング	上巻きの基本的(コームの持ち方、パネルの角度)な巻き方の確認 2ブロックに巻く	
5		反復を繰り返し上巻きの巻き方を覚える	
		2ブロックとフロントの取り方、巻く位置を理解する	
		ブロッキングからフロント3本巻く	
		上巻き右側の完成 反復練習の継続	
		左側巻いてオンベース完成させる	
		反復練習しながら、巻き収めの位置の確認をする	
		ブロッキングからオンベース巻く タイム管理	
		反復練習 タイム到達	
		ブロッキングの短縮と下巻きの基本的な巻き方を覚える	
		全頭巻きをする	
		ブロッキングから全頭巻き 正確な形の確認	
第29回	反復練習、時間短縮、目標時間の到達に向かう		

到達目標	ワインディングは国家試験課題の1つなので、しっかり構成と正確さをしっかり身に付けて2学年に進む
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	1学年次は国家試験の課題なので、構成を習得する

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	美容実習 (オールウェーブ セッティング)	必修	57	19.0	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	国家試験第2課題(オールウェーブセッティング)の全体の構成を正確に理解、作成する。タイム管理をして最終的に国家試験課題25分にもっていき合格する。								
学習的	コームの扱い方。ピンの使い方の徹底								
教科書	理容師美容師試験センター「実技課題集」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回 ┆ 第5回	オールウェーブ作成	オールウェーブウィッグのカッティング シザーズとセニングシザーズの扱い方 オールウェーブウィッグのカッティング シザーズとセニングシザーズの扱い方 ワインディングとパーマ	
第9回 ┆ 第12回	オールウェーブ	オールウェーブセッティング ウェーブ構成、コームの持ち方、リッジの出し方 ウェーブをつなげる	
第13回 ┆ 第15回	オールウェーブ座学	オリジナルセットの基本的な要素 ヘアカーリング ヘアウェービング	
第16回 ┆ 第19回	オールウェーブ	反復練習(ウェーブ幅・ハーフウェーブの確認) ピンカールの作成(ピンの扱い方・シングルピンの留め方) スカルプチュアカール技術の一例 ベースを取らないフラットカール ピンング(片面打ち)	

到達目標	1年次に最初の形をしっかりと覚えて2年次には、完成させて国家試験に臨む
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	美容実習 (シャンプーイング)	必修	102	3.4	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	サイドシャンプー・バックシャンプー・ヘッドスパ								
学習的	シャンプーを行う際には、頭皮や毛髪の正常に応じて、頭皮、毛髪、の健康を保持するように技術を行う。								
教科書	日本理容美容教育センター「美容実習1」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	サイドシャンプーの手順・道具の名称	手順の作図作成	
第2回	シャンプーイングにおける作業姿勢	作業時における合理的な力の配分を知る	
第3回	シャンプーイング手順 サイドシャンプー	サイドシャンプーのシャワーヘッドの持ち方、ウィッグを使用して指の動き方を覚える	
第4回			
第5回 、 第9回	シャンプーイング手順・実践サイドシャンプー	相モデル(ファーストシャンプー)	
第10回 、 第15回	シャンプーイング手順・実践サイドシャンプー	相モデル(セカンドシャンプー)	
第16回 、 第29回	シャンプーイング手順・実践バックシャンプー	相モデル(バッグシャンプー)	
第30回	ヘッドスパ	ヘッドスパのプロセス	
第31回 、 第34回	ヘッドスパ	ツボマッサージや専用の用剤を使用し、育毛促進のための頭皮環境の改善やリラクゼーションに重きをおく。	

到達目標	シャンプーイング前の準備、シャンプーマッサージなど繰り返し行うことでコミュニケーションを取りながら施術できるようにする。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	特別教育授業	選択	60	2		講義	演習	実習実技
							○	○	
授業の概要	理容・美容の現場で活用できる外国語やヘアデザインに必要なデッサン・ヘアスタイル画の描き方の習得、身体機能や運動機能を学ぶ体育活動を通して幅広い知識を学ぶ。								
学習目的	理容・美容の現場で増えつつある、外国人のお客様へのコミュニケーションの習得やお客様からの要望を叶えるためのデッサン力の習得、また体育活動を通して幅広い知識を学ぶ。								
教科書	日本理容美容教育センター「外国語」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	外国語	自分について話そう(好き・嫌い)	
第2回		あいさつ(英語の時制)	
第3回		お客様を迎える(丁寧表現)	
第4回		電話での接客(電話の英語)	
第5回		コンサルテーション(髪質の表現)	
第6回		シャンプー&トリートメント(英語の発音)	
第7回		ヘアカット(カットの技術)	
第8回		パーマ(現在完了形)	
第9回		ヘアカラー(色彩の表現)	
第10回		仕上げ(長さや温度)	
第11回		お会計(チップの基本)	
第12回		クレーム対応(混乱を避ける)	
第13回		海外研修旅行(街での英語)	
第14回		サロンの現場から(メイクアップ・ネイルケア・シェービングと衛生・和装着付けと写真撮影)	
第15回			
第16回			理容師・美容師のための「和英表現集」
第17回 ～ 第18回	体育	炊事遠足、スポーツ等を通してチームワーク、コミュニケーション能力を養う	
第20回 ～ 第21回		球技、運動を通してチームワーク、コミュニケーション能力を養う	
第23回 ～ 第25回		校内技術大会等を通して技術の向上、競争力を養う	
第26回	美術	鉛筆の持ち方、グラデーションの表現	
第27回		球体、円柱を描く	
第28回		顔のパーツを描く	
第29回		雑誌等のモデルの模写	
第30回		雑誌等のモデルの模写	

到達目標	海外研修旅行での英会話でのコミュニケーション能力の習得とヘアデザイン画の作成
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	スペシャル授業	選択	40	1.3		講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	理容師・美容師の技術で身だしなみを整えQOLの向上に繋げ、お客様の尊厳を守り、その人らしさを出し、生活の支えになるように心がける。								
学習目的	理容室・美容室に来店が難しい方への訪問サービスを提供する。								
教科書	日本理美容福祉協会・福祉理美容士養成講座 テキスト1・2								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
【福祉理美容】			
第1回	福祉の基本的理論・社会福祉制度／高齢者福祉制度	福祉とは／ノーマライゼーション／高齢者福祉制度の概要／介護保険制度／地域包括ケアシステム／高齢者に関わる職種	
第2回	障がい者福祉制度／その他の制度	障がい者福祉制度の概要／地域生活支援事業／医療保険制度／児童福祉制度	
第3回	福祉理容とは／訪問理容の現状	福祉理美容とは／福祉理容士・福祉美容士としての職業倫理／福祉理美容の基本理念／訪問理容対象のお客様を取り巻く環境	
第4回	訪問時の基本的留意点／福祉理容のリスクマネジメント	お客様の状況に応じた個別対応／訪問理容を行う事前準備／訪問先での注意点／お客様への配慮／福祉理容現場のリスクとは／リスクマネジメント	
第5回	障がい・病気と認知症の理解／障がい・病気の種類と留意点	障がいと病気への理解／加齢に伴うからだところの変化／高齢のお客様のこころからだ／障がいのあるお客様の留意点／障がいの種類／特定し疾病について	
第6回	認知高齢者の理解と対応／医療の基本的理解と感染・消毒について	認知症とは／認知症の種類と特徴／認知症の方への対応／医学と医療／健康と病気	
第7回	感染と予防策／ターミナルケア	感染／感染症について／免疫・自己免疫／消毒の方法／バイタルサイン／ターミナルケアとは／福祉理容師の役割	
第8回	感染と予防策	正しい手洗いの仕方。チェッカーマシンできちんと洗われているかを確認する	
第9回	衣服の着脱	お客様から熱い、寒いなど言われた場合の借脱方法を知る	
第10回	杖歩行の介助	杖が使われているお客様がどのように歩行されているのかを学ぶ	
第11回	視覚障害者の介助	理容・美容現場においてお客様を施術場所に誘導する	
第12回	車いすの扱い方	車いすで理容・美容サービスを行えるように車いすの名称・扱い方の基本と知識を身に付ける	
第13回	移動シャンプーイング	移動式を正しく行えるように手順を覚える。極力、水を最小限に抑える	
第14回			
第15回	試験対策	練習問題を行い試験範囲を学習する	
【着付け】			
第1回	着物・帯の種類・小物	名称を覚える。TPOに合わせる	
第2回	着物のたたみ方	本たたみ・夜具たたみ・長襦袢のたたみかた	
第3回 ～ 第5回	着付けの一般的要領	着物の着付け方、帯の結び方等、年齢・体型を考慮して着付けを行う	

到達目標	【福祉理美容】日本理美容福祉協会・福祉理美容士養成講座 テキスト1・2 筆記試験合格基準に到達する。 【着付け】体の線をいかし、上品に年齢に応じた着付けをする。
成績評価	【福祉理美容】日本理美容福祉協会「準福祉理美容士検定試験」習得を目指す。 【着付け】単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	ネイル技術	選択	60	2	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	ネイルの基礎知識・ネイルケア・カラーリング・ジェルネイル、アート								
学習的	ネイル技能と知識の基礎を習得し、日本ネイリスト検定試験センター「ジェルネイル検定初級」の技能を身につける								
教科書	日本ネイリスト協会テキスト参照								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ネイル理論	爪の構造・爪の形と整え方	
第2回		ネイルケアの使用用具の説明	
第3回	ネイルケアの使用用具	用具の確認・消毒法	
第4回		テーブルセッティング	
第5回 ～ 第9回	ネイルケアの基礎	テーブルセッティング・消毒・ファイル・キューティクルクリーン	
第10回	ネイルケアチェック	テーブルセッティング・消毒・ファイル・キューティクルクリーンのチェック	
第11回 ～ 第13回	ネイルケアの基礎	ポリッシュの塗り方・オフ	
第14回 ～ 第17回	ネイルケアの基礎	ジェルの下準備・ジェルの塗り方・ジェルのオフ	
第18回 ～ 第22回	ネイルケアの基礎	ジェルデザイン(ピーコック・鼈甲柄・ドロップネイル、ターコイズネイル等)	
第23回	ネイルケアチェック	デザインチェック	
第24回 ～ 第29回	ジェルネイル基礎	ジェルネイル検定初級の技能習得	
第30回	ネイルケアチェック	ジェルネイル検定初級の技能チェック	

到達目標	日本ネイリスト検定試験センター「ジェルネイル検定初級」の技能習得を目指す
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	エステティック技術	選択	60	2	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	エステティックの歴史を学ぶとともに、美しさを顔や身体に施してあげて心身ともにリラックスや癒しなどを与える。								
学習的	エステティックを行う上で、相手を気遣いなおかつ自分自身をも満足させ楽しく実習する。								
教科書	理容師美容師試験センター「実技課題集」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	エステティック概論	エステティックの歴史・心得を学ぶ	
第2回	皮膚の生理と構造	皮膚の構造や状態を学ぶ	
第3回	皮膚の構造	表皮・真皮・皮下組織をもっと深く学ぶ	
第4回	カウンセリング	カウンセリングの重要性を学ぶ	
第5回	カウンセリング	相モデルでカウンセラーとクライアントになって練習	
第6回	カウンセリング	学生間変更・カウンセリング チェックシートを作成	
第7回	スキンチェック	肌質の種類と特徴を勉強する	
第8回	マッサージ	基本手技7種類の勉強する	
第9回	マッサージ ウィッグにて	ウィッグを使ってマッサージの練習	
第10回	マッサージ 相モデル	相モデルでマッサージの練習	
第11回	マッサージ 相モデル	相モデルで順番・力加減を確認しながら練習	
第12回	フェイシャルケア技術	目的・効果・方法などを勉強する。	
第13回	クレンジング	手順確認後、相モデルで練習	
第14回	ディープ・クレンジング	手順確認後、相モデルで練習	
第15回	フェイシャルマッサージ	手順確認後、相モデルで練習	
第11回	フェイシャルパック	手順確認後、相モデルで練習	
第12回	保湿(美容液・乳液・クリーム)	手順確認後、相モデルで練習	
第13回	クレンジング～保湿までのフェイシャルケア	フェイシャルケア 相モデルでクレンジングから保湿まで練習	
第14回	フェイシャルケア技術 相モデル	反復練習	
第15回	フェイシャルケア及びデコルテ マッサージ	デコルテマッサージの手順の勉強 手の動き方他	
第16回	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージにおける手の動かし方と操作ポイント	
第17回	フェイシャルマッサージ 相モデル	フェイシャルマッサージ相モデル練習	
第18回	フェイシャル・パック	フェイシャル・パックの種類・手順の勉強	
第19回	フェイシャル・パック相モデル	フェイシャル・パック手順 相モデル練習	

第20回	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック相モデル	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック相モデル練習	
第21回	ボディケア技術	ボディケア技術の種類と特徴	
第22回	マッサージ法	マッサージ法・温熱法(ヒートトリートメント)・運動法・有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチング	
第23回	マッサージ法 相モデル	マッサージ法・温熱法(ヒートトリートメント)・運動法・有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチングを相モデル	
第24回 、 第26回	フェイシャル・ケア～フェイシャル・マッサージ	前回までの復習	
第27回	ボディマッサージ	ボディマッサージのポイントの勉強	
第28回	ボディマッサージ相モデル	ボディマッサージのポイント相モデル	
第29回	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック相モデル	フェイシャルマッサージ～フェイシャルパック相モデル練習	
第30回	全行程	フェイシャル～ボディまでの総復習	

到達目標	身だしなみの徹底と皮膚の状態の理解や手順をしっかりと覚える。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	ヘアモード技術	選択	60	2		講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	サロンワークに必要なヘアアレンジで自己表現・自己実現を図り技術や感性を磨き仕事の幅を持たせる。								
学習的	プロとして必要な「ヘアデザインの幅」が大きく広がる。								
教科書	オリジナルテキスト「アップスタイル」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	基本の練習	仕込み／ゴム止め／逆毛／ピニング／仮り止め／すき毛／シェービング／ネット／飾り／道具	
第2回			
第3回	一束	輪ゴム止め／すき毛なし／セパレート／サイドバージョン／ひねり／すき毛あり／すき毛／逆毛あり／ネープバージョン／逆毛土台／逆毛ボリュームバージョン	
第4回			
第5回	夜会	本夜会ゴム止めバージョン／重ね夜会ツーポイントバージョン／重ね夜会ワンポイントバージョン／本夜会ピン止めバージョン／重ね夜会ゼロポイントバージョン／本夜会・逆毛ボリュームバージョン	
第6回			
第7回	サイド	サイドの引きつめ／フロントの引きつめ／サイドのねじり／サイドの返し／フロントの日本髪バージョン	
第8回			
第9回	ボリューム	トップのボリューム／全体のボリューム／トップのラフアレンジバージョン／全体のラフアレンジバージョン	
第10回			
第11回	シニヨン	ワンポイントトップ／バイアスフォワードシニヨンとくずしバージョン／ワンポイントクラウン／リバースシニヨンとくずしバージョン／フォワード巻き込みシニヨン日本髪バージョン／リバース巻き込みシニヨン日本髪バージョン	
第12回			
第13回	カール	ワンポイントトップカールとルーズカール&スパイキーバージョン／ワンポイントカール／ワンポイント右ネープサイドフォワードカール／ワンポイントネープカール／スリーポイントカールリーゼント風	
第14回			
第15回	編みこみ	ロープ編み・表三つ編み・裏三つ編み／ロープ編み・三つ編みくずしバージョン／四つ編み・四つ編みくずしバージョン	
第16回			
第17回 ～ 第19回	パーマネントウェーブ技術	毛髪診断／ロッドの選定／カットイング／ワインディング／1剤2剤塗布／放置タイム／ロッドアウト／スタイリング／パーマ剤に関する注意事項	
第20回 ～ 第21回	ワインディングバリエーション	巻き方や方向性に変化をあたえてロッドの大きさを変えたり、特殊なロッドを使用してパーマネントウェーブに幅を持たせる。	
第22回 ～ 第30回	ボリューム	トップのボリューム／全体のボリューム／トップのラフアレンジバージョン／全体のラフアレンジバージョン	

到達目標	技術や感性を磨き、基本を習得する。
成績評価	単位認定 課題提出
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	接客・接遇	選択	30	1		講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	社会人に求められる常識的な心得を十分理解させ、マナーに対する知識、態度、技能を身につけさせる。								
学習的	社会人になる前の最終学校として、節度ある学生を育成し、即戦力として活躍できる人材を育てる。								
教科書	オリジナル資料「サロンワーク」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	接客・接遇の知識	接客とは何か、接遇との違いを説明	
第2回	ジョブカフェ(青森県若年者就職支援センター)	就職における仕事理解・進路の進め方	
第3回	サロンでの実習	受付、応対、マナーの練習と実地訓練	
第4回	サロンでの実習	相モデルでの接客訓練	
第5回	赤十字ボランティア清掃活動	地域清掃、登下校通学路	
第6回	赤十字ボランティア青森マラソン	青森マラソン(給水活動)	
第7回 ～ 第9回	施設でのハンドマッサージ	地域施設での課外授業(ハンドマッサージ)	
第10回 ～ 第11回	赤十字ボランティア炊き出し訓練	地域赤十字団との合同炊き出し訓練	
第12回	サロンでの実習	受付、応対、マナーの練習と実地訓練	
第13回	サロンでの実習	相モデルでの接客訓練	
第14回	施設でのハンドマッサージ	地域施設での課外授業(ハンドマッサージ)	
第15回	まとめ・総合	接客・接遇・ボランティアのまとめ	

到達目標	マナーや接客業の知識とボランティア活動を通して節度ある人材に育成しているか判断する。
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	1学年	総合技術	選択	60	2	○	講義	演習	実習実技
								○	
授業の概要	基本的技術を基に、さらに発展した高度な技術を習得するとともに、最新技術の習得を目指す。集大成としてヘアショーを開催し観客に披露する。								
学習的	高度な技術を習得するとともに、最新技術の習得を目指す。チームでのコミュニケーション、協調性を養う。								
教科書	オリジナル資料「過去のヘアショーの資料、DVD」等								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	メイク①	ヘアショー用舞台メイク・モデルを決めてメディア等で参考資料をそろえる	
第2回	メイク②	ヘアショー用舞台メイク・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第3回	メイク③	ヘアショー用舞台メイク・モデルにメイクを施す	
第4回			
第5回	ネイル①	ヘアショー用舞台ネイル・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第6回	ネイル②	ヘアショー用舞台ネイル・ネイルチップのファイリング	
第7回	ネイル③	ヘアショー用舞台ネイル・ネイルチップのカラーリング	
第8回			
第9回	セット①	ヘアショー用舞台セット・テーマに沿ったデッサン画を作成	
第10回	セット②	ヘアショー用舞台セット・テーマに沿ったスタイリングの練習	
第11回			
第12回	セット③	ヘアショー用舞台セット・セットの完成	
第13回	カラー①	ヘアショー用舞台カラー・テーマに沿ったカラーリングを決め、ブリーチ等の施術	
第14回			
第15回	カラー②	ヘアショー用舞台カラー・テーマに沿ったカラーリングを施術	
第16回			
第17回	ファッション①	ヘアショー用舞台ファッション・テーマに沿った衣装のデッサン、選定	
第18回			
第19回	ファッション②	ヘアショー用舞台ファッション・テーマに沿った衣装の決定	
第20回			
第21回	振り付け	テーマに合った、ウォーキング等の確認	
第22回	映像、音楽	テーマに沿った、映像、音楽の選定、作成	
第23回			
第24回 ↓ 第26回	舞台	演出、装飾、舞台セット	
第27回	写真	モデルのスチール写真撮影	
第28回 ↓ 第30回	ヘアショー	集大成としてヘアショーを開催し観客に披露	

到達目標	集大成としてヘアショーを開催し観客に披露
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	